



西日本区中部ホームページ・http://www.ys-chubu.jp/

2010年6月号

「主題」・スローガン

- 国際会長 : 「一つとなる力」
 アジア地域会長 : 「一つとなる力」・「夢見るアジア、愛するアジア」
 西日本区理事 : 「すべてのいのちを大切に」・「いのち・平和・環境」
 中部部長 : 「ワイズの理念を胸に自信を持って活動しよう」
 プラザクラブ会長 : 「仲間と共にワイズを楽しもう」

【評価・計画＝今年度の評価反省を的確にまとめて、やりたいことと出来ることを見つけましょう。そこから次の計画が生まれるでしょう。】

6月例会・今後の予定ご案内

【6月第1例会】

日時：6月10日(木)・18:45-
 場所：名古屋YMCA会議室
 内容：卓話：市政よもやま話
 講師：池田千晶氏(中日新聞記者、現在名古屋市庁詰)
 ◇他クラブ会員・YMCAの方聴講歓迎、参加ご希望の方は6月5日までに連絡主事の万福寺へご連絡ください。
 ただし、他クラブ会員方は1500円の参加費をいただきます。

【6月第2例会】

日時：6月24日(木)・18:45-
 場所：名古屋YMCA会議室
 出席者：役員(鈴木・榎田・高田)
 (義務者)7月担当者(榎田・後藤)
 8月担当者(未定)

【今後の予定】

- 中部役員引継ぎ式
 日時：6月19日(土)13:30-
 場所：名古屋YMCA 3F会議室
- 7月第1例会(POM)
 日時：7月10日(土)・11日(日)
 場所：漁師料理 民宿あら井(あらい)
 知多郡南知多町片名字新師崎3-18
 TEL. 0569-63-2500
 ◇11日(日)は乗合船でアジ・サバ・イサキを狙いますので、ご希望の方は6月10日までに榎田へご連絡ください。
 乗合船(予定)は石川丸、料金は7000円です。
- 7月第2例会
 日時：7月22日(木)・18:45-
 場所：名古屋YMCA会議室

5月例会・その他行事の出欠表 (敬称略)

役員	会員氏名	出席者			算定
		1	2	M	
直前会長	大島 孝三郎	○	○	○	○
	小澤 幸男	○			○
書記	榎田 守隆	○	○		○
	後藤 猛	○	○		○
	島崎 正剛	○			○
会長	鈴木 誉三	○	○		○
会計	高田 廣	○	○		○
	松永 裕子				
連絡主事	万福寺 昭美	○	○		○
ゲスト	大平 純市	○			
M=メーカー	1. 名古屋クラブ5月第1例会				

出席率合計・(算定合計/会員数) %					88.9
1. ニコボックス (円)				15960	
2. オークション・切手		3850		3850	
ファンド・当月合計/累計					19810
7月号のブリテン寄稿者は小澤さんです。 400字詰原稿用紙4-5枚程度でお願いします。 Eメール: moritaka_kushida@ybb.ne.jp					
8月号・鈴木/9月号・島崎/10月号・高田 11月号・大島/12月号・後藤					
◆インターネットをご利用の方は、上記西日本区中部ホームページの「名古屋プラザクラブ」を閲覧ください。					

5月第1例会(南山・グランパス合同)報告

日時：3月13日(木)・19:00-21:00

場所：南山幼稚園 会議室

卓話演題：東欧ポーランドの民主化と日本

講師：野崎勉氏(名古屋東海クラブ所属)

1979年、東欧ポーランドのワルシャワ工科大学に政府給費留学生として入学、1980年から1989年のポーランド激動の時代を過ごしました。

1981年来日したワレサ連帯委員長が帰国後、「ポーランドを第2の日本に」のスローガンを掲げたように、ポーランドは日本に友好的な国であることはあまり知られていません。日本との歴史的関係はポーランド分割(1795年プロイセン(ドイツ)・オーストリア・ロシアに分割され領土を失った)後の1905年、日露戦争でロシアに勝利したことが彼らを勇気付けました。独立を回復したのは第1次大戦後の1919年です。分割から123年の間何度も蜂起するが失敗、多くの人たちがシベリアに追放され飢えと寒さの悲惨な状況にあったので、当時独立したポーランドは各国に支援を要請するも応じたのは日本政府のみで、1920年から1922年にかけて765人の子どもたちを救いました。また、第2次大戦中、リトニア日本大使館の杉原氏はナチスに追われたユダヤ人たちにヘビザ発給、ポーランドに住むユダヤ人たちの多くが救われた話は有名です。

ワルシャワ大学では1900年代初めから日本語・日本文化に関する研究が行われていました。ポーランド分割以前は王政だったため皇室への尊敬の念を抱き、日本庭園、生け花、歌舞伎、能など優れた伝統文化や黒澤明、溝口健二を始めとする映画文化に憧れ、長崎、広島原爆投下に怒り、日本に同情してくれました。しかし、現在の日本はアメリカナイズされた国、集団主義と個性喪失、長時間労働の



(3クラブ合同例会・野崎氏、熱くポーランドを語る)

国など悪いイメージが定着しつつあるようです。

そのほか、ベルリンの壁崩壊後の東欧民主化の軌

跡、ポーランド文化、EU参加、日本企業進出など数々のテーマを熱く語っていただきました。

介護施設の30人ハモンド・オルガンを楽しむ

わがクラブのハモンドオルガンによる老人ホーム慰問が5月16日、南区のアミーユ星崎で行われ、入居者と職員の方30人は懐かしのメロディーを1時間ほど楽しんだ。



(老人ホーム音楽慰問・お手伝いご苦労さまでした)



(老人ホーム音楽慰問・みなさんポコ・ア・ポコの合唱を聴く)



(老人ホーム音楽慰問・子どもたちと一緒に歌う)

07年11月3日から続く年2回開催の恒例行事で6回目になる。今回も2回目から参加の想念寺子どもコーラス「ポコ・ア・ポコ」の歌声と鈴木郁子先

生の Hammond・オルガン演奏が館内に響き渡る。小澤さんの軽妙な司会に気を許したのか、“鐘のなる丘”の演奏を終えたとき「この当時俺は社交ダンスを楽しんでいた」と男性の声が掛かる。この一言をきっかけに場が和む。大声で歌っている“りんごの歌”や“青い山脈”が流行った頃、この人たちは何歳で何をしていたのだろう、とふと思う。

最後は鈴木郁子先生の“燃えよドラゴンズ”をみんなで歌って音楽慰問は終了した。

5月第2例会報告

日時：5月27日（木）・18:45-21:00

場所：名古屋YMCA会議室

1. 6月第1例会・鈴木

(1) 他クラブ会員の参加を呼び掛ける。当日例会開催がダブらない名古屋・グランパス会長にメールおよび会長連絡会議(6/4)でお願いする。

(2) 参加費用(食事代)は他クラブ会員の方は1500円徴収・YMCAの方は無料とする。

2. 7月第1例会(POM)・鈴木

資料作成 クラブ年間活動計画(島崎)
決算書(高田)
予算案(後藤)

3. 中部役員引継ぎ式

議事進行、新旧役員への連絡、必要作成などについてキャビネット同士が連絡を取り合い6月1日、YMCAにて打合せをする。

4. 折り鶴ラン

6月19日中部役員引継ぎ式開催日の午後4時ごろ、YMCAに来訪されます。盛大にお迎えしましょう。

ジジィたちのゴルフコンペ2010-①

3月某日・幹事から電話があった。「元気か、平山です」「決まった」、「うん、連休明けの16日から2泊で木曾駒、泊まりはいつもの所」「16、17、18日か、いいよ」、「ゴルフは木曾駒高原と宇山」「キャディーは」、「宇山はセルフ」「えっ、大丈夫か」、「何が」「あなたの心臓」、「摂生しているから大丈夫、あなたのは?」「順調に動いている」、お互い発作で救急に飛び込んだ同士である。

昭和37年入社同期6人が、連休明けに取引先の保養所に泊まってゴルフを楽しむこと今年で5年目になる。昨年、酔った勢いで「来年は2泊にしよう」という話が、何となく決まってしまった。

4月2日・平山からファクシミリが入る。『同期会各位 “同期会開催日と行動予定のご案内” 桜も満

開、という便りが届く季節になりました。会員の皆様も元気にお過ごしのこととお喜び申し上げます。今年も同期会の開催日が近づき、高橋君に依頼しておりました宿泊先も、例年通り××鋼機の木曾駒保養所に決まりました。今年も1人も欠けることなく6人が集合し、71歳以上の私たちが気力と体力に挑戦するため、2日間ゴルフをすることになりました。』の挨拶文に続く“スケジュール”と“費用”の項は省略するが、開催日が彼から電話で確認してきたときより1週間早い。気にはなったが「彼のことだから」とそのままにする。

5月2日・『同期会各位 “同期会開催近づく” 桜の花も散り風薫る5月、1年で最も過ごしやすい時節がまいりました。道端の皐月とつつじの区別が付かない私ですが、池田市の花「さきつつじ」がピンク・白・紅・紫と咲き乱れ絶好な季節を迎えることになりました。今年も全員が揃いましたが、近藤君が5月11日(火)定期健診のため10日のゴルフが済み次第帰宅することです。また、高橋君より「経費節減」の要望があり再検討の結果、下記のスケジュールと費用で行う予定です。(略)なお、高橋君のご尽力により、××鋼機の「会員証利用証明書」使用許可をいただきましたので、ゴルフのプレー代は上記費用より若干安くなる予定です。なお、70歳以上は非課税になる可能性があり、年金手帳など証明できるものをご持参ください。追記：非常にレベルの低い戦いですが、過去5回最下位である私は、今回は始めてゴルフ練習場に行き、最下位脱出を目標に練習しています』の案内が幹事から届いた。4月26日・昨年、一昨年はグロス108打、ダブルペリア方式で4位、今年はこのスコアでも難しいと練習場に行くことにした。平日の午前中はご同輩が多い。軽く屈伸運動をしてささと、テークバックしてクラブがトップの位置に来たとき、一瞬“どう振り下ろす?”と考えた途端、ボールの頭を叩いていた。あとは散々である。長年やってきたことだから体が覚えている、100球も打てば元に戻るだろう、とはとんでもない勘違いである。“そんなにゴルフは甘くないぞ、何事も日頃の精進ですよ”との声が聞こえそうで、そっと周りを見回した。

5月9日・1年振りに会って真っ先に出る話は、お互いが抱える病気のことである。「無事でした、また1年よろしく」が結論のようだ。6時、飲みながらの食事の話題は、政治・経済・社会から、かみさん、子ども、孫、果ては現役時代の裏話まで際限がない。民主党の味方平山は、稚拙な政権運営を批判されて「バラマキと言うが自民党は裏でばら撒いたが、民主党は表でばら撒いたので目立っただけ」と

か、「世間は相変わらずあれが欲しい、これが欲しいとキリがない、それに徳之島の基地反対の集会に県外の人が参加したらしいが、彼らの地元で基地の話が来たらどうするだろう?」、論点がずれている。「基地を九州各県持ち回りとか、全国 46 都道府県の民意を聞くとか言っているが、基地負担 75%の沖縄に同情しながら『総論賛成各論反対』、恐らく全県『反対』に決まっている」などの身勝手さや曖昧さを民意と言うのであれば彼の言い分に同意する。こんなお話から始まったが、酔うほどに「昔はよかったなあ」、「今の若い者は」と昔聞いた台詞が出るようになって、もう終わりである。「寝るか」に「明日は早いから」とみんな部屋に戻った。(つづく)
(櫛田 守隆)

聖書に由来する語句・慣用句・諺

【最後の晩餐の食卓】

【まことに、あなたがたに告げます。神の国で新しく飲むその日までは、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。(マルコの福音書 14. 25) あなたがたは種を入れたものは何も食べてはならない。すべてあなたがたのすまいにおいて種入れぬパンを食べなければならない。(出エジプト記 12. 20)】

【最後の晩餐の食卓は、モーセによる「出エジプト」前夜の故事を記念するユダヤ民族の「過越祭(スグ・ツサイ)」の儀式に従い、子羊の肉、無酵母のパン、ぶどうの実から造ったもの、ですが、ユダヤの戒律によればこの期間に発酵するものを口にしてはならないため、“ぶどうの実で造った物”はアルコール抜きのみぶどう液だった。(ぼくたちが聖書について知っていたこと・小学館)】

【現在の過越祭の献立は、1. 無酵母のパン 2. 焼いた羊の肉 3. ゆで卵 4. 野菜=セロリを塩水または酢に浸したもの 5. 苦菜=わさび 6. ハロセット=甘い果物のおろし汁にくるみや干しぶどうを混ぜたもの 7. ぶどう酒 です。】

Zoom・口蹄疫拡大のとき

毎日朝食をとりながらテレビを見る。どこもワイドショーばかりで内容も似たり寄ったり、チャンネルを頻りに切り替えながら同じものは見ないようにしている。普天間問題から沢尻エリカの離婚騒動まで幅広く世の出来事を教えてくれ、新聞の社会面とスポーツ欄を読む手間が省けて助かっている。

5月19日の朝、テレビをつけると東国原宮崎県知

事が、記者の「対策が遅いのでは?」の質問に色を成して怒っている、「一生懸命話し合っているんです、夜も寝ないで。検討中です、検討中」と席を立ちとうとしたが、大人気ないと思ったのか座り直した。口蹄疫のことである。“記者さん、よく言うよ”。前日牛舎内の牛たちを背景に農家の人とインタビューしているテレビ各局の画面を見ながら、“無神経な”と思ったが、やはり翌日からは「提供:宮崎県」、「消毒の上、了承を得て取材」、「甲斐さん(農家の方)が撮影した映像」などの断り書きが画面の右上に出るようになった。

数日前までは報道規制されているかのように静かだったが、新聞・テレビで頻りに取り上げられるようになったのはいつ頃からだろうか。溜まっていた中日新聞の11日からのラテ欄を繰って朝のワイドショーの内容を調べてみた。16日CBC「口蹄疫がなぜ拡大?現地では切実な声が」、17日CBC・東海、18日CBC・東海・メーテレ・中京、19日以降は全局一斉の激しい報道合戦である。新聞も日経の11日付から見ると、11日社会面に「横峯選手、賞品を宮崎県に 1200万円「口蹄疫対策に役立てて」とある。12日、商品欄の「牛肉のイロハ®」に『4月以降、口蹄疫に感染した牛が宮崎県で相次ぎ見つかった。牛肉相場に現在大きな影響はないが、感染が広がった場合の「肉離れ」を懸念する声が出ている』と、至ってのん気である。14日、3段見出しで「口蹄疫、拡大の懸念」、17日朝刊4段夕刊3段見出し、18日「口蹄疫で財政支援検討」の記事に感染が広がった連休中、赤松農相が中南米へ行っていたことに「責任者として全く優先順位を間違えている」と野党からの批判を伝えている。赤松農相が帰国した8日後に問題を指摘した野党も、事の重大さを認識していなかったらしい。

口蹄疫が最初に宮崎県で確認された4月20日ごろ、お隣の韓国では各地に飛び火している最中だったらしく、それでも日本が大騒になるまでの約1ヶ月の間報道各社に危機意識はなかったようだ。報道の基本は「事実を早く、正確に」だが、政治家や官僚の言動を待っているから肝心なことを見逃す。宮崎県知事の記者会見で「対策が遅かったのでは?」と言える立場ではない。日経の記事に『感染が広がった連休中に』とあるが、連休中に「口蹄疫が拡大中」の記事など読んだ記憶はない。17日の自民党議員の発言に「そうだったのか」では遅い。横峯さくらちゃんが、「口蹄疫の拡大を心配して自宅がある宮崎県に」とワールド・サロンパス・カップ2位の賞金を全額寄付した、とのニュースを当時全く危機感のない新聞で知ったとは何という皮肉だろう。